



2024年2月14日

各位

会社名 株式会社アゴーラ ホスピタリティグループ  
代表者名 代表取締役社長 クォック・ゲイリー・ヤン・クエン  
(コード：9704、東証スタンダード)  
問合せ先 財務経理部 部長 石井 伸幸  
(TEL. 03-3436-1860)

### 連結および個別業績の予想値および前期実績との差異に関するお知らせ

2023年12月期の連結業績および個別業績の予想値および前期実績値との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2023年12月期連結業績予想数値と実績値との差異(2023年1月1日～2023年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 7,000	百万円 50	百万円 50	百万円 100	円 銭 0.39
今回実績(B)	7,309	△93	△195	△149	△0.59
増減額(B-A)	309	△143	△246	△250	
増減率(%)	4.4%	—	—	—	

#### 2. 2023年12月期通期個別業績と前期実績値との差異(2023年1月1日～2023年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 68	百万円 △756	百万円 △608	百万円 △629	円 銭 △2.48
今回実績(B)	43	△436	△192	△63	△0.25
増減額(B-A)	△25	319	416	566	
増減率(%)	-36.2%	—	—	—	

#### 3. 差異の理由

##### (1) 連結業績

当第連結累計期間における売上高は、訪日外客数の増加という外的な要因により大きく影響を受けました。当社の運営する宿泊施設におきましても、旺盛なインバウンド需要を要因として売上高が増加いたしました。その結果、前期を大きく上回る7,309百万円(前期比

47.6%増)となり、宿泊事業における売上高は6,419百万円(前年同四半期比58.3%増)、霊園事業および住宅等不動産開発事業等を行っているその他投資事業の売上高は前年とほぼ同じ890百万円(前年同四半期比0.8%減)となりました。

営業費用については、継続的なコスト削減に努めておりますが、円安基調が続き、材料費の他、水光熱費、人件費等、全体的に運営コストが増加し、売上高の増加による寄与も及ばず、営業損失は93百万円(前期は営業損失1,401百万円)となりました。また、営業外収益として為替差益75百万円等により113百万円を計上いたしましたが、支払利息91百万円が発生したこと、ホテル不動産保有会社の借入金を借り換えたことにより資金調達費用67百万円が発生したこと等により営業外費用215百万円を計上した結果、経常損失は195百万円(前期は経常損失1,106百万円)となりました。

次に、特別利益として今井荘の売却に伴う固定資産売却益等により129百万円を計上いたしましたが、非支配株主に帰属する当期純損失38百万円の計上の結果、親会社株主に帰属する当期純損失は149百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失1,298百万円)となりました。

## (2) 個別業績

売上高は、宿泊事業からの匿名組合収入の計上がなかったことにより43百万円となりました。

費用面においては引続きコスト削減に努めたものの、売上原価に宿泊事業に係る匿名組合配当原価80百万円を計上したことにより営業損失は436百万円となりました。経常損失は貸倒引当金戻入益247百万円等を計上した結果192百万円となりました。また、特別利益として、今井荘の売却に伴う固定資産売却益129百万円を計上したことにより当期純損失は63百万円となりました。

以 上